

令和4年12月例会

国指定特別史跡・特別名勝・小石川後樂園庭園・唐門復元

概要

小石川後樂園（岡山の後樂園と区別するためこのように言います。面積 70847 m²）は水戸徳川家の上屋敷の庭で、回遊様式日本庭園です。寛永6年・1629に創られました。唐門は内庭から本庭へ入る庭門です。

「後樂園紀事」は源信興が元文元年/1736に書いた後樂園記であり、そこには「御屋敷より後樂園への入口なり。扁額あり。大明朱之瑜これを書す。御組人太田久蔵金具を以て文字をつくる」とあります。

空襲で焼失したものを、2020オリンピックを機に復元しました。

現状変更許可	平成30年11月16日（30文庁第59号）
工事期間	平成31年3月18日～令和2年11月10日
施工	大成建設株式会社東京支店
設計・管理	株式会社文化財保存計画協会
施工主	東京都（所管・建設局公園緑地部）



完成時写真 令和2年12月



位置図



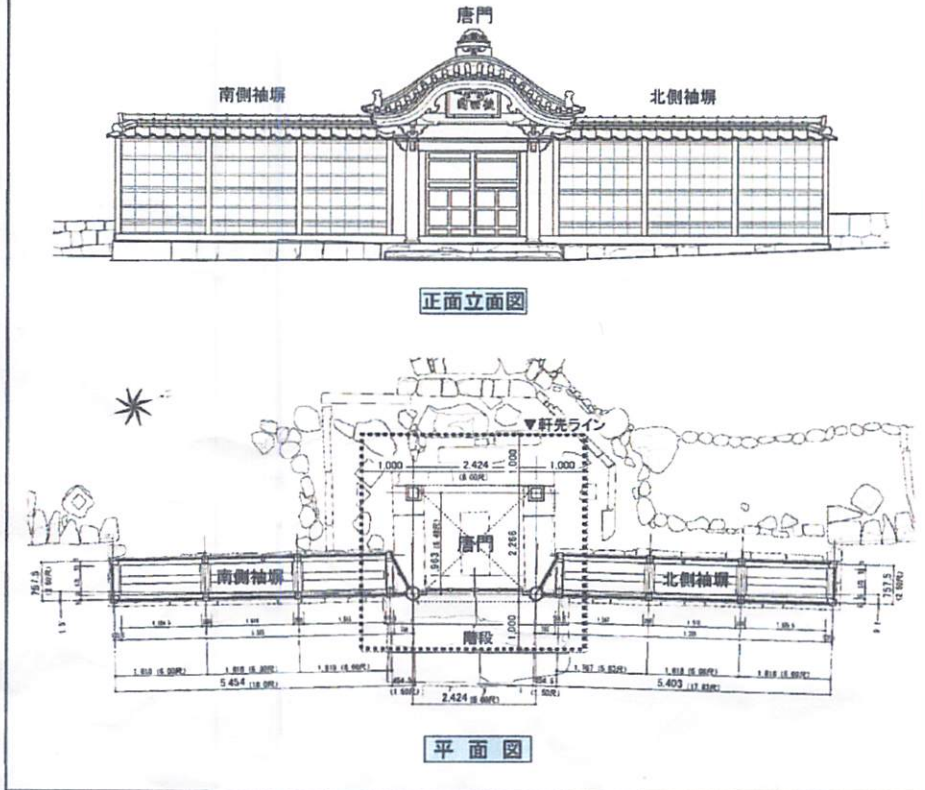
正面詳細



正面彫刻詳細（扁額を架ける前）

◆ 唐門・袖塀復元（木造・瓦葺）

- ・唐門 建築面積 5.49㎡ 高さ4.24m
- ・袖塀 建築面積 8.57㎡ 延長11.77m 高さ2.52m



平面図及び正面立面図

復元工事は徹底した考古学調査に基づき進められました。建築工事は昭和初期の写真を高性能分析器で解析して詳細寸法を探り、工法等は他の唐門工事の事例を調査し、それらを専門家による会議で検討して進められました。

彫刻、金物文字ならびに彫刻彩色は、そのための専門委員会を設け、徹底して検討を重ねました。その結果、最高度の復元工事ができたと考えています。



扁額（金物文字）



扁額を掲げ、門扉を開いて詳細チェック



袖壁基礎考古学調査